

◆八木健 選 ～句集『今日はいいい日』を読む～

滑稽俳句協会会員の赤瀬川至安さんから、句集『今日はいいい日』が届いた。これまでたくさんの句集をいただいたが、見たことのない全く新しいかたちの句集で、奥様の恵実さんと一緒に作られた「二人句集」である。仲間や、結社で複数名が句を出してつくる合同句集はよくあるが、お二人、ご夫婦での句集は初めて拝見する。

一九九六年から二〇二〇年までの二十五年間の作品から、それぞれ自選の百句を収録されているのだが、すべて自筆で、見開き右側に奥様の句、左側に至安さんの句が掲載されていて、手書き文字のなんとも言えないあたたかさがある。

句集誕生の経緯を、「あとがき」よりご紹介させていただこう。

「はるか昔に名古屋の合唱団で知り合い、その後結婚し、恵実ピアノ教師、コーラス伴奏者、そして母親としても多忙であった。四十代後半にほぼ同時に始めた俳句であったが、その不思議な魅力に飽きることなく続けて来られた。仕事をリタイアしたジャズ好きの至安と、俳句以外の全てを辞めた恵実だが、ここへ来て、せつかく二人共通の趣味である俳句を、自分達の足跡として残さないものか。そんな思いから『二人句集』を考え始めた。そして実現したのがこの句集である。」出版には、ご息子が、アイデアやアドバイスを下さったそうで、「発行人 赤瀬川豪」となっているのも、ほほえましい。

◆新年

元朝の貌して秋田犬来る	恵実
初御空音の届かぬところまで	至安
たたう紙の一重結びや春小袖	恵実
鶺鴒色の富士を拝むや初日の出	至安

◆春

二ヶ月のくらがり呑む鯉の口 恵実

近道の畦やはらかし芹の水 至安

あをぞらに起伏のありぬ蝌蚪の水 恵実

初蝶の思はぬ早さちぎれ雲 至安

打楽器のあと打ちリズム草青む 恵実

魚氷に上る類人猿の土踏まず 至安

囀の被さつてくる転車台 恵実

句作りの人生七分梅三分 至安

息を静かに春雨の傘の中 恵実

自動ドアから佐保姫がやつて来る 至安

青空を詰めて柳の芽吹きかな 恵実

懐中の骨の温みや三鬼の忌 至安

◆夏

淋しさは刻とまること水中花 恵実

母の日や画かれし母の胸薄く 至安

蚕豆や透けてつめたき猫の耳 恵実

吊革の丸と三角夏帽子 至安

花うつぎ野口雨情の七つの子 恵実

水を出て蛇全長をもて余す 至安

◆秋

蓮の実や底ひに闇のつもりたる 恵実

人はみな星に近づく虫時雨 至安

八朔や赤糸で縫ふ白布巾 恵実

文化の日ペンは太目のモンブラン 至安

◆冬

米を研ぐ水の重たき夜寒かな 恵実

雪まみれもうどうにでもなれと思ふ 至安

やはらかなシロの寝息や冬ぬくし 恵実

布団から妻指図せり年の暮 至安

一頁一句ごとに楽しく、二頁二句を一つとして別の世界が広がり、俳句の新しい味わい方ができる。

